

高度医療人材養成拠点形成事業（高度な臨床・研究能力を有する医師養成）  
 タイプB 取組の概要と推進委員会からの主なコメント

代表校名 (連携大学名)	東京大学
事業名	高度がん医療に対応する人材養成と基盤強化
事業責任者	東京大学大学院医学系研究科長・医学部長 南學 正臣
事業の概要	
<p>がんゲノム医療をはじめ高度がん医療・研究分野において人材不足が顕在化しており、学生教育を含め、この分野をけん引する人材育成が急務である。本事業では、高度がん医療・研究において先導的な役割を果たしてきた東京大学がその基盤を最大限に活用した人材養成プログラムを実施し、さらにヒト検体利活用など研究支援体制面でのアンメットニーズの強化に同時に取り組み、両者を有機的に連動させることで、世界トップレベルのがん診療の実践とがん研究を推進するための基盤を構築する。先駆的取り組みとして、がんゲノム医療における医学生教育を重点的に実施し、特にがんゲノム医療の現場における診療参加型臨床実習の充実による高度な臨床能力、研究マインドを有する医師を養成する。橋渡し研究・アカデミア創薬分野をはじめ新たな大学院教育にも取り組む。本事業により養成した人材を全国に輩出することで我が国のがん診療・研究の強化に貢献する。</p>	
推進委員会からの主なコメント ○：優れた点等、●：改善を要する点等	
<p>○東京大学は全ゲノム解析等の研究を推進しており、同分野で高いレベルの研究業績がある。                  ○がんゲノムエキスパートの育成は急務となっており、本事業にフィットすると考えられる。                  ○東京大学独自のバイオリソースセンターの体制強化や、分子病理解析支援、大学院生の RA, TA としての雇用、患者からの同意取得の体制整備について記載されている。                  ○学生から、がん遺伝子パネル検査の全過程、エキスパートパネルを経験出来る取組が優れている。                  ○TR・アカデミア創薬人材育成プログラムや専門家養成のための複数のプログラムを計画するなど、充実した計画になっている。                  ○医行為の経験率の上昇、臨床研究論文数、教育研究時間の維持・増加を必須指標としている。                  ○学外研究者や企業との共同研究を活性化することについて記載されている。                  ○関連する診療科や部門、研究室から選出された委員で構成される運営委員会が事業運営を行い、事業の評価については外部評価委員会での評価を取り入れている。                  ○補助事業終了後のスキーム維持のための財源についても構想が練られており、自律的な運営を維持・発展するための計画についてしっかりと記載されている。</p> <p>●バイオリソースセンターの強化が臨床研究の推進に繋がる理由について言及することが好ましい。                  ●検体処理が1名、画像管理・標本作成業務が1名、合計2名の雇用に留まっている。                  ●現行のバイオリソースセンターの機能強化に加え、新規性のある取組もあると尚良い。                  ●医行為経験数の目標設定が低い。                  ●臨床研究論文数については、定量的な目標値を設定することが望ましい。                  ●論文数に限らず、論文の質についても言及することが望ましい。                  ●本事業の取組の全国的な波及効果についての具体的な目標を設定することが好ましい。                  ●「結果として多数の医師の養成により働き方改革につながり」と記載されているが、具体的な方策が読み取れなかった。                  ●「長期的には内外の利用者からの利用料金による収入の大幅増が見込まれる」と記載されているが、実現見込みが明らかになっていない。</p>	